環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

第１５３号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば
TEL：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

エコメッセ 2023 in ちば　開催します

エコメッセちば実行委員会

つながれ、ひろがれ、エコメッセ「千葉県最大の環境活動見本市」のもとに市民団体、企業、大学、行政など社会の様々な主体が参加・出展し、環境について子どもから大人まで楽しく学べる環境活動見本市「エコメッセ 2023 in ちば」を2023年 10 月15日(日)に幕張メッセ国際会議場で開催します。これに先立つ 2023 年 10 月 14 日(土)からはオンライン開催としてエコメッセinちばのホームページ上でオンライン出展団体の活動紹介動画が公開されます。

(https://www.ecomesse.com/)

28 回目となる今年のテーマは、「Peace：身近な暮らしからもう一歩！」です。SDGs の 17 のターゲットの中の Peace に関わる団体にフォーカスしながら、日常生活の中でも取り組める何かを感じていただけるイベントにしたいと思っています。

2020 年からの３年間は COVID-19 の影響をうけ、開催形態が紆余曲折していました。今回は会場出展とオンライン出展の ２つの形態に集約されました。会場開催は幕張メッセ国際会議場の２階を中心に開催され、64 団体がブース出展します。（9月 13 日時点）また、実行委員会企画である「親子で SDGs を体験しよう　里山たんけん隊　～自然の変化を楽しもう～」や同時開催企画である「家族で楽しむ里山遊び 10」、「資源循環、木材のリサイクルについてみんなで考えてみよう」、「燃料電池自動車展示・試乗会」などの体験型の企画も多数行われます。

さらに若者が主役の環境保全活動アイディアコンテストも同時開催され、コンテストへの投票と結果発表もエコメッセの会場内で行われます。

オンライン開催では、学生団体おりがみによる企業インタビューとして、千葉県産業循環協会と生活協同組合コープみらいのインタビュー動画が公開される他、17 団体の団体紹介動画がエコメッセinちばのホームページ上に公開されます。（9月 13 日時点）

人と人とのつながりが持ちにくかったコロナ禍の３年間は多くの市民活動団体に大きな打撃を与えました。エコメッセちばも会場開催ができない年や体験型の企画ができないもどかしさを感じながら、なんとか開催だけは継続してきました。今年はそうした制約をほとんど受けない、コロナ禍以前のエコメッセが幕張メッセに戻ってきます。賑やかな子供たちの声が戻った会場で出展団体の人達と触れ合いに幕張メッセにお越しください。多くの皆さんと Face to Face でお会いできることを楽しみにしています。

若者が主役の環境保全活動応援事業（千葉県主催）

「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」開催します

・・・・・・・・・・・若者団体へあなたの一票を是非！！・・・・・・・・・・・

日時：令和５年１０月１５日（日）
　　１２時３０分～１４時３０分
会場：幕張メッセ国際会議場２階　２０１室
　　（エコメッセ 2023in ちば会場内）

本事業は、当会の会報 152 号に掲載しましたが、若者の創意工夫による環境保全活動のアイデアコンテストを開催し、活動への支援を行うことで、千葉県の環境活動をリードする若手人材の育成を図ります。現在は、若者からの応募を締め切り（9/19 日）、10 月 15 日にコンテストを開催します。

コンテストには１次審査で選出された５団体がプレゼンを行います。プレゼンは 12 時 30 分から開始しますので、是非ご参加願います。若者のいろいろなアイデアを聞いて、若者を応援していただきたいと思います。５団体の紹介は、プレゼンの他、エコメッセちば会場内の２カ所にも掲載し、投票箱も用意しています。投票は 14 時 30 分に締め切りとなります。

審査は、審査員の点数と一般来場者の投票数を加算して、上位 3 団体が選ばれ、15 時からエコメッセ会場（コンベンションホール）で受賞団体の発表が行われます。

若者はアイデアコンテストに向けて、若者応援団体（NPO 団体：49　企業：17）の中の５団体に参加・体験して、状況や活動団体について学んできました。夏休み期間でしたが都合が取れない若者もあったと思われます。

応援団体で若者体験受け入れ可能な団体の紹介は、当会の Facebook・X（twitter）等で紹介しました。
https://www.facebook.com/npokanpachiba/
https://twitter.com/chibayouth_env

【スタディツアー参加の様子】下記の体験等を通して、若者のアイデアのヒント探しに役に立ったと思います。ご協力頂いた団体様に感謝申し上げます。

■手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会（柏市）
柏市「道の駅しょうなん」を中心とした街プロジェクトを見聞き、体験しました。親子向けのイベントひまわりのワークショップ・梨ジュースつくり・水上バイクなど、誰でもが手賀沼に関心を持ってもらえる場が提供されていました。

■NPO 法人しろい環境塾（白井市）
里山保全活動を地域の協力を得て、米作り、畑、カメの調査など多様な活動を知りました。竹切り、竹のチッパーなど体験してきました。

■株式会社 TOA シブル（八千代市）
産業廃棄物のオイルを,TOA シブルでの取り組みを見学し、SDGs など会社の取り組みを知りました。

■おとずれ山の会（市原市）
市原市の所有地を、おとずれ山の団体が維持管理している様子を知りました。団体の思いと若者の思いなどのやり取りが印象に残りました。

■シェア里山「ヤマナハウス」（南房総市）
オンラインでの情報交換でした。ヤマナハウスの周りを写しながら、団体と若者の応答で状況を知ることができました。

手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会

株式会社 TOA シブル

NPO 法人しろい環境塾

おとずれ山の会

（文責：桑波田和子）

2023 年夏休みユースボランティア活動体験を終えて

９月２日（土）14:30 幕張メッセ 203 会議室で開催した「ユース活動発表会」では、事務局からも次のお話をさせていただきました。

2023 年のユースボランティアの活動は、受け入れ５団体・15 プログラム、ユース申込 42 名・報告書提出 22 名という結果でした。

前年度、夏休みユースボランティア体験は、どうしたら継続していけるかを考える上で課題も見えてきました、とご報告しました。今回は、どうしたら継続していけるのかを次年度に向けて皆さまとご一緒に考えたいと思います。

★課題解決の一つ目は、受け入れ団体に当日の受付と実施報告をお願いすることでした。７月の交流会は、若い人に地域の活動を知ってもらいたい想いを共有する上で大変貴重でした。

受け入れ団体にもご理解いただいたものの、暑さの中の活動の上に受付して事後報告をお願いしたのは、負担になって申し訳なかったと思いました。

団体と事務局がお互いに共有できたのは、ユースとの連絡に LINE を使った点で、返事は来ないが、「既読」で確認できました。次年度に向けてさらに研究の必要があります。

★課題二つ目は、「熱中症」対策です。ユースにとって地域のボランティア活動体験という時間を持てるのは、夏休み以外にはないかと思いますので、朝早くの活動で時間も短くする、公民館等の建物内でクールダウンのプログラムを入れて、安全対策をする。室内でのボランティア体験プログラムも検討する。などを団体にも提案してみることかと考えています。

★課題三つ目は、「夏休みユースボランティア募集！」のポスターを県内高校・大学の校内に掲示していただく効果が、なかなか現れないていないのではないかという点です。これについては、学校側でも対応してくださっていることが、ユースの報告から見えてきました。

私立の高校は、小・中・高校一貫もあることから保護者の方にも体験活動をお知らせいただいていることが分かりました。

生物部宛にも送ってみました。その上でのプログラムの多様化を、受け入れ団体にも検討をお願いしていきたいと考えました。

「ユース活動発表会」の日程は、「エコメッセちば」に合わせる以外に、１月～２月ごろの団体の屋外活動のない日程を考えていくことも大切かと考えています。より多くの団体と連携していきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。　（文責：横山 清美）

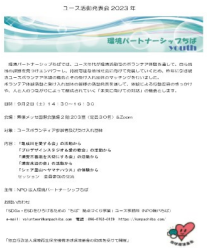
２０２３年ユース活動発表会までの事務局の流れ

ユースボランティア受け入れ団体の活動の流れと事務局の関わり

- ６月受け入れ団体募集
- ７月募集開始（県内高校大学）
- 受け入れ団体へご説明 お願いと活動の報告
- 発表会

ユースの皆さんと受け入れ団体をつなぐ流れ

- ７月募集開始（県内高校大学）
- LINE とメール活用について
- 受け入れ団体と繋ぐ
- ユースより報告
- 発表会
- 証明書の発行



北拠点づくり参加団体紹介

クルベジ ショートアニメ お披露目会 ＆ トークセッション

～頭とお腹をマッチさせる一日～

日時：2023 年8月 20 日(日)
　　14:00～16:00
会場：志津コミュニティセンター

SDGs 北拠点のメンバー、北総クルベジの喜屋武さんからお知らせがあり、参加してきました。参加者は、一般消費者、里山活動家、農家、行政、団体、大学、学生と多様な方達でした。

おおまかには、里山整備⇒竹炭を畑に改良材として使う⇒CO_2 固定⇒作物を作る⇒購入し食べる⇒温暖化防止へ貢献している⇒循環について、それぞれの立場からのお話でした。

クルベジ炭とは、間伐材などをそのまま燃やせば CO_2 になるところを蒸し焼きにする。炭化することで CO_2 を固定し、土壌改良材として農地に埋めると、1 番短いものでも 400 年。きちんと炭素固定できていれば 1,000～1 万年は貯蔵できると考えられている。その間は大気中に戻らないので、数千年の間は“削減”できる。北総クルベジでは、竹や木などの材料で炭を作り畑などに使用しているそうです。

クルベジ炭を畑に活用している「結び合い農園」丹上徹さんから、クルベジ炭をわかりやすく紹介した動画（2 本）の紹介がありました。

https://www.youtube.com/watch?v=O70YNrc4nzY
https://www.youtube.com/watch?v=tR30801gB5Y

東邦大学の安達先生からは、CO_2 の土壌吸収について。東邦大学の学生からは、クルベジ炭をもっと身近に活用を広げるためのアイデアなど報告されました。

佐倉市公園緑地課からは、先導的グリーンインフラ協議会(仮)について説明がありました。

北総クルベジの活動は、「未来の子供達に確かな未来を残そう」をテーマに、自然・環境・食を地域の資源（人を含む）をつなげて未来作りをする新しい自然調和型循環型社会を目指しています。

（文責：桑波田 和子）

「産業廃棄物処分場から学ぶ環境保全教育」

環境団体 とんがらし座（環境カウンセラー） 小堀 功

【はじめに】

とんがらし座は廃棄物の再資源化やゼロエミッションの廃棄物処理について考える環境保全団体です。この度、とんがらし座の企画第一弾として、「産業廃棄物の処分場：廃プラ編」を市民環境活動の方々を交え、以下の内容で工場見学に行って来ました。

- 日時：2023 年 8 月 30 日（水）
　　13：00～14:：15
- 場所：株式会社市川環境エンジニアリング
　　行徳工場
- 見学者：小堀ほか市民 3 名
- 内容：座学（VTR 視聴、質疑応答）
　　及び工場見学

【廃棄物処理～生成～リサイクルに貢献】

行徳工場は、日本発の RDF（Refuse Derived Fuel：可燃性の一般廃棄物を主原料とする固形燃料）生成を工場化した特徴があり、産業廃棄物処分業には珍しく一般廃棄物の許可と産業廃棄物の廃プラスチックの許可を得て、回収分別・破砕・造粒過程を経て、RPF を生成します。

RPF （Refuse derived paper and plastics densified Fuel）は高品位の固形燃料で、サーマルリサイクルされます。主にボイラー等の助燃剤に使用され、総合エネルギー効率の向上と化石燃料削減により CO_2 削減など地球温暖化防止に貢献しています。

【最後に～工場見学の在り方】

今回の工場見学で学んだ点から、次回以降の見学時のチェックポイントを考えてみました。例えば、

- 周囲に一般立入禁止表示ある？
- 工場の臭気、騒音、振動は感じる？
- 廃棄物処理に関わる排水処理はある？
- 周辺環境と近隣苦情は？行政指導は？
- 再資源化率は？（ゼロエミッションか？）

等の視点で見学すると「廃棄物処理に対する考え方、捉え方＝環境保全」の知識が向上します。

最後に今回、ご対応頂きました市川環境エンジニアリングの皆様、本当にありがとうございました。感謝致します。

公民館で、ダンボール工作をしました。

場所：越智公民館 日時：2023 年 7 月 30 日

前回号の「環境パートナーシップちば」だより 152 号で 2 件公民館での講座の報告をしましたが、この夏最後の公民館講座が越智公民館でのダンボール工作でした。

今回は、小倉・中村の二人で担当し、参加者は１年生から５年生までの 12 名。ダンボール工作をやりたくて美浜区から参加というお子さんもいらっしゃいました。越智公民館の所在は緑区で、誉田駅からバスを利用しなければならず、美浜区在住の私にも遠い場所だったので、その熱心さに驚きました。

子ども達は４つのテーブルに分かれて座りました。前回同様、3R と SDGs の話を聞いてもらってから、工作ではビー玉レーン作りと自由工作の二本立ての内容にしました。初対面なのににぎやかでおふざけモードのテーブルや、とても静かだけれど工作大好きというテーブル、保護者が積極的にお手伝いをするテーブルなどそれぞれにカラーがあって、子どもたちのペースで進んでいきました。

私など普段から小学生とのお付き合いはあまりないので、子どもたちの様子をみながら結構神経を使います。座学では、この言葉はこの言い方は大丈夫か？知っている？知らない？どんな風に伝わっているか？反応は？そして工作では適切に作業が進んでいるか？困っていないか？集中して取組めているか？楽しそうか？

環パがもっている公民館講座のプログラムの内容を毎年見直してはいますが、社会背景や時代の変化、地域ニーズ等に合わせて見直し切れていない部分もあり、手探り状態で対応しているというのが現状です。学校や家庭でない「私たち」が子供たちに接することのできる貴重な機会のクオリティーをさらにアップしたい思いがさらに強まりました。

（文責：中村 明子）

IVUSA の印旛沼クリーン大作戦 2023

IVUSA（イビューサ）とは NPO 法人国際ボランティア学生協会の略称で、全国 80 大学の約 2,500 名の学生が作っている団体です。印旛沼流域のナガエツルノゲイトウ除去活動のほか、九十九里浜のごみ拾い活動を 20 年以上も取り組んでくれています。

2023 年の印旛沼クリーン大作戦（ナガエツルノゲイトウ除去活動）は８月３日～5 日に桑納川下流部で行われ、関西からの２名も含めて 45 名の学生の参加がありました。特に、13 名の OB・OG が駆けつけて一緒に作業をしてくれたのは、とてもうれしいことでした。また、水資源機構さんは、宿舎の提供だけでなく、除去作業にも積極的に参加してくださいました。その他にも地元の農家さんや農水省の方など、関係者・一般市民の参加者は３日間の合計で 148 名にも上り、学生パワーに負けないくらいがんばりました。

ちなみに、わが環境パートナーシップちばは、炎天下での過酷な除去作業はとても無理で、写真撮影くらいしかできませんでしたが、準備の段階で、千葉県河川環境課や水資源機構と IVUSA をつないだり、準備資材についてのアドバイス、過去の経験などをお教えしました。

３日間の活動の成果は、おみごと、ナガエツルノゲイトウを 17 トン除去！ でした。熱中症警戒アラートが発令される炎天下の作業でしたが、リーダーの適切な指令のもと、しっかり水分補給や休憩をとって、熱中症やけが人を一人も出さずに、無事に活動を終わらせることができました。

会を重ねるごとに少しずつ地元市民の参加や交流が増え、IVUSA の活動もナガエ除去だけでなく里山保全など印旛沼流域全体をよくする活動に拡がってきています。ますます IVUSA の今後の活動が楽しみです。　（文責：小倉 久子）

Before

がんばる ！

After

生物多様性って何だろう

ESD-J　重 政子

“生物多様性“って何？といきなり質問されても、絶滅危惧種のこと？外来生物の駆除？・・・等々いろいろ個別の説明はできても、生物多様性保全が市民生活と重要なつながりがあることとしては身近に感じにくく思っていました。

そこで今回は、生物多様性こそ、人の暮らしと密接なかかわりがあることを、改めて考えてみたいと思います。

生物多様性って何？

「生物多様性とは」地球上のあらゆる自然の中で、生き物（いのち）がそれぞれの場で直接的・間接的にバランスよくつながり、共存して生きている状態を指します。この生物多様性は、種の多様性”・“生態系の多様性”・“遺伝子の多様性”の３つの視点で捉えるとわかりやすいといわれています。

なぜ必要？・私たちとのかかわりは？

地球には、肉眼では見えない細菌から鯨のような大型動物まで、既知なもの、175 万種類、未知を含めると3000万種類もの生き物がいるといわれています。

様々な種類の生き物がそれぞれのつながりで安定して生きていくことで、“種の多様性”を保ちます。

森林・里山・河川・湿原・干潟、海など、それぞれの周囲の環境に適応した生態系をもって生きていることを“生態系の多様性”としています。

また、同種の生き物においても、形・模様・生態など様々な特性の遺伝子を持っていることで、あらゆる環境変化への適応力が高まり、種の全滅を防ぐことができるとして、“遺伝子の多様性”を大事にします。

現在、多くの生き物が絶滅の危機にさらされています。その問題の多くは、人間の生活活動が原因とされ、人間が生き物の絶滅スピードを 1,000 倍にも加速させていると考えられています。私たちの暮らしは生物多様性と安定した気候に大きく依存しているにも関わらず、開発による資源の過剰利用や、外来種や化学物資の環境汚染による生態系の破壊・種の減少・絶滅、更には温暖化などの地球環境の変化による危機によって、生物の生態・種・遺伝子の多様性のバランスが崩れつつあります。

この生物多様性の減少と気候変動が加速し、人間の生活を含め地球上のすべて生き物への被害が増大しています。

生物多様性を守るために

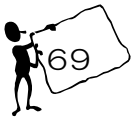
生物に国境はなく、その保全には世界全体で取り組むことが重要ですが、そこには様々な国の利害が絡んでおり、また対処すべき課題も山積しているため、国際会議で検討し条約を交わして施策してきました。生物多様性については 1992 年「環境と開発のテーマ」で開催されたリオサミットにおいて「気候変動・生物多様性・砂漠化対処」が、“リオ３条約”として締結されました。気候変動は最近の極端な豪雨や干ばつ、山火事などで問題の深刻さを身に染みて感じますが、生物多様性は私たちの目に触れにくいところで劣化が進み、気が付いた時にはすでに取り返しのつかないことが多いのです。

生物多様性保全の世界的な取り組みの最前線としては、昨年 12 月モントリオールで開かれた生物多様性条約第 15 回締約国会議（CBDCOP15）で、2030 年までの新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されたことです。

この枠組は、2010 年の COP10 で採択された「愛知目標」（2020 年までに取り組む 20 の個別目標）の後継となる目標で、2030 年までに陸域と海域の 30%以上を保全する「30 by 30 目標」などがターゲット（行動目標）として定められました。日本においても、この枠組を具体的な行動に移すために「生物多様性国家戦略 2023-2030」が 2023 年３月に策定されました。次回はこの国家戦略と市民生活とのつながりとして私たちにできることを考えてみたいと思います。

参照：生物多様性　環境省（www.env.go.jp）

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　69　―
おききしました！　この人・この団体



ＮＰＯ法人しろい環境塾

理事長　渡邉 康夫

ＮＰＯ法人しろい環境塾は、緑豊かで安らぎのある景観や豊かな生きものに恵まれた貴重な里地里山を復元・維持して、次世代に引き継いでいこうと毎週３日間、樹林地の手入れをはじめ、耕作放棄地の農地への復元、環境に優しい農法による農地の維持管理、生きものに優しい冬水田んぼ、景観植物や景観作物の栽培、間伐材の有効活用（炭焼き、竹細工、キノコ栽培）などの活動を展開しています。

活動日：毎週、月・水・土曜日の９：45 から 15：00 まで。ご自分の都合に合わせて参加できます。会員募集中です。

NPO 法人しろい環境塾は千葉県ＳＤＧｓパートナーシップに登録し「陸の豊かさも守ろう」を目標に活動しています。

各部門の活動

里山保全部

農家所有の 20 か所の樹林地では、竹の間伐や下草刈りを続けています。白井市委託の樹林地は年々広がり、運動公園・文化会館・第三小学校周辺で6ha になりました。市民が森を散策できるように、下草刈りや倒木の処理、ごみ拾いを行います。安全に作業を行うために、チェーンソーと刈り払い機の講習会を毎年必ず開催します。

炭焼部は里山保全部と協働し、間伐材を利活用した「木炭」「竹炭」を作ります。炭は２０２２年に白井市のふるさと産品に登録されました。

農業支援部

地元農業者や地域住民など多くの方々の協力を得ながら、人手不足や高齢化などの理由で耕作できなくなった水田・畑地の荒廃を防ぐために雑草の刈払い、水稲類の穀物や各種野菜の栽培を通じた農地への復元に取り組んでいます。復元農地では環境にやさしい環境保全型農業、人手不足の地域住民からの依頼に応じた地域作業支援も推進し、地域活性化への貢献を目指しています。さらには里山に囲まれた山王谷津水田では冬季湛水に取り組み、姿を消しつつあるニホンアカガエルなどが生息しやすい環境を整備するなど「生物多様性」の復活を図り、地域の農業と自然環境の調和実現を目指しています。

子どもの環境教育部

持続可能な社会をつくるために、身近な自然、地域の自然と文化を探求し、郷土愛や地域への愛着心を持ち、主体的に行動できる子どもたちを育成します。

①自然に親しむ
②生きる力、感性を育てる
③生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する

【2023 年度　子どもの環境教育（８回）
イベント内容】
田んぼの学校（６回）、カメの観察会(２日間)
白井運動公園の森であそぶ・森で工作

市民交流部

白井市をはじめ北総地域には、緑豊かな里山が広がっています。「里山を生かしたまちづくり」をめざして、白井市平塚地区でその事業を始めました。里山を保全する必要性や里山の良さを市民に直接知ってもらうための場所づくりです。これらのフィールドを使って体験講習会や里山まつり等のイベントなど、広報・啓発活動を含め市民交流事業を行っています。今年も１０月 14 日に里山まつり in 平塚を開催します。

施設管理部

ベースキャンプに設置してある大型テーブルや長椅子、各種作業台、各種機材の保管コンテナ、農業機械やその他大型機械、各種倉庫等の維持管理をしています。そして、その各種機材や機械等のメンテナンスを主な作業としております。大型テーブルベンチ等、ほとんどの設置物は不用品や無償で譲り受けた材料での手作りで、世の中にただ一つしかない品で、味わいがあります。

稲架掛け

ナガエツルノゲイトウ駆除協力

運営会議報告

８月度運営会議

８月１０日（木）20:00～21:30
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 千葉市公民館講座　7/25 、7/30
- 印旛沼環境基金助成金交付決定
- ユースボランティア活動展開
- ナガエツルノゲイトウ駆除　8/3～5
- 若者が主役の環境活動応援事業
- ちば興業銀行賛助会員の件　他

【協議】
- だより 153 号
- エコメッセ 2023in ちばオンライン出展
- 若者が主役の環境活動応援事業
- ユース活動発表会（交流会）9/2
- 印旛沼環境基金事業
  「若者と考える印旛沼の未来」　10/1

９月度運営会議

９月１４日（木）20:00～21:30
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 北拠点団体イベント参加　8/20　8/30
- ユース活動発表会（交流会）9/2
- セブンイレブン基金事業打ち合わせ
- エコメッセ 2023in ちば出展者説明会 9/13
- 若者が主役の環境活動応援事業

【協議】
- だより 153 号
- エコメッセ 2023in ちばオンライン出展
- エコメッセ里山遊び体験　10/15
  （セブンイレブン基金事業）
- 若者が主役の環境活動応援事業　10/15
- 印旛沼環境基金事業
  「若者と考える印旛沼の未来」　10/1
- その他

お知らせ

東京湾大感謝祭 2023
東京湾の魅力を発見しよう
～みんなで東京湾の未来を作ろう～

日時：10 月 14 日(土)・15 日(日)
　　10:00～17:00
会場：横浜市役所アトリウム
　　(みなとみらい線「馬車道」駅直結
主催：実行委員会
共催：国交省、環境省、横浜市、他
入場無料
- 東京湾・地元自慢(14 日・15 日)
- パネルディスカッション
  「どうする？東京湾」(15 日)
- 展示・出展コーナー　他

詳細は、東京湾大感謝祭 2023 公式サイト

関東エコロジカル・ネットワーク 10 周年シンポジウム
関東の空にコウノトリとトキが舞う
「環境と治水の好循環」

日時：11 月 23 日(木・祝)13:30～16:10
会場：野田市役所 8 階大会議室
定員：200 名
参加費：無料　オンライン視聴あり
ミニ講演：涌井史郎氏
パネルディスカッション：野田市長、
　　小山市長、長谷川雅美東邦大名誉
　　教授、他
申込（11/16 締切)、問合せ
(公財)日本生態系協会 関東エコ･ネット係
★同日午前中に「こうのとりの里」にて
　サブイベントもあります。

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。